

今年の経済をみる視点－5Sで会社の環境を整えよう

経営コンサル第二部長 宮内 健次

5Sは、古くから製造業を中心に行われている活動である。5Sは、自分が考え出したものではないが、コンサルティングの現場で、この5Sの必要性を強く認識することがある。

ある食品製造会社のことだが、事務所では、机の上に書類が高く積上げられ、通路には製品の一部はみ出すなど雑然としていた。一方、工場では、製造設備に油やほこりが付着し、部品の一部は黒ずんでいた。このような状態で、良い製品を作るのは難しいのではないかと思った。社長の話では、過去に、製品に異物が混入し取引先から業務改善の要請を受けたこともあると言っていた。

もの作りは、製品作りの前に環境作りが大切だと思う。整備された環境で製品を作らなければ、たとえ他社より優れた製品でお客様に支持されていたとしてもいつか製品に問題が発生して信用を落とすことになりかねない。お客様に永く支持されていくためには、良い職場環境を作ることが大切だと思う。そして、この職場環境の整備に5Sは効果的な活動だと思う。

この食品製造会社では、社長自身も環境整備をやらなければと考えており、5Sと一緒に実施する機会があった。次に、この食品製造会社で進めていった5Sについてお話したい。

5Sは次のように進めていった。まず5S委員会を設置し、委員長に社長が就任し、委員に各部門長を選任した。5S委員会は、5Sの要であり推進計画の作成、基準作り、5Sのけん引役を担っている。この5S委員会の作成した推進計画に従って、全社的に5Sを進めていった。具体的には、「整理」、「整頓」、「清掃」、「清潔」、「しつけ」の順で実施した。

この5Sでは、特にしつけを重視して、会社のルールを守ることを徹底した。なぜなら、折角、整理、整頓、清掃がきちんとできてもしつけができていないと、いつの間にか5Sが崩れて、元の状態に戻ってしまうからである。しつけをきちんと実施していくとルールを守る習慣が作られる。

ただし、ルールには、守れない場合や周知されていない場合があるので、単に守ることだけを押し付けることはよくない。しつけの活動の中で、現在の会社のルールが実態にあっているかどうかの見直しをしてほしい。いままでにルールの見直しをしていなかった会社では、作業負担が大きくなる場合もあるが、全面的にルールを整備し直すことが大切である。

ルールの整備が終了したら、ルールを社員に周知していく。社員説明会で周知したり、社内報で知らせたりする。作業上のルールは、各部門で十分に勉強会を実施する。ルールを知らないうちに労働災害を発生させたりしないためである。

さて、5Sを実施さえすれば、会社の環境は整備されるかという点必ずしもそうではない。5Sを以前から実施しているという企業でも、実際に見学すると、不用品を工場の裏に隠して置いていたり、目に付くところだけ掃除していたりするのをよく見かける。そういう企業は、経営者の「5Sをやるぞ」という掛け声だけで実施している場合が少なくない。

5Sは、委員会を設置して、その中できちんと推進計画を立てて進めることが大切である。個人個人がバラバラに進めたり、5Sの取り扱い基準もなしに進めると5Sが混乱したり、停滞したりする。5Sを進める場合には、5S委員会の設置としっかりした推進計画が必要である。また、できれば、職場がきれいになったというだけで終りにしないでほしい。せっかく、全社レベルで進めているのだから、5Sで生産性の向上や品質の向上も実現させてもらいたい。

以上のことを参考にして、是非5Sを実施することをお勧めしたい。5Sを実施していくことで、より良い職場環境を作るとともに企業の業績につなげていってほしいと思う。なお、5

Sについては、「5 Sで決算書がグングン良くなるんです」(宮内健次編著、日刊工業新聞社、6月下旬発刊)をご一読いただければ幸甚である。

5 S の 進 め 方

